ラグビー ワールドカップ2019 埼玉県熊谷市 開催都市に決定！

2015年3月2日、ラグビーワールドカップ2019の開催都市が発表され、熊谷も開催都市の一つに決定した。県営熊谷ラグビー場を試合会場として、熊谷市は埼玉県と共に立候補し、その招致活動が実を結んだ。

ワールドカップの大会は、2019年九月から約一か月間、熊谷ラグビー場を含む全国の十二会場で開催される。四年に一度の開催となるワールドカップ。日本での開催によって世界各国からの来場者が見込まれ、日本の文化、スポーツスピリッツを世界に発信する絶好の機会となるだろう。

「ALL for ONE, ONE for ALL」「皆はひとりの為に、一人は皆の為に」というラグビーの合言葉から、楕円球の歴史が受け継がれ、新たな物語が作り出されている。

アルカス熊谷の活躍

RUGBY TOWN KUMAGAYA

2014年、七人制女子ラグビーのクラブチームとして、世界で戦う選手を育成するＮＰＯ法人「ARUKAS KUMAGAYA（アルカス熊谷）」が立正大学の熊谷キャンパスで誕生した。

2016年のリオデジャネイロ五輪から正式種目となる七人制女子ラグビー。五輪での活躍を目指し、国内の強豪として躍動的な輝きを見せるアルカス・クイーンが、ラグビータウン熊谷を盛り上げている。

アルカス熊谷に所属する選手たちの大半は、熊谷地域で働きながら立正大学の熊谷キャンパスの施設・設備を利用し、ラグビーの練習に励んでいる。五輪や世界大会への出場だけでなく、更にその上の目標として、「世界一」になるというビジョンが設立当初から掲げられていた。

将来のオリンピアンの育成という大きな目標も、日本一の栄冠を立て続けに達成し、現実味を帯びてきた。アルカス・クイーンの存在は、ラグビータウン熊谷にとり大きな朗報となっている。

そしてまた、国際基準に通用する選手の育成には、地域でのラグビー普及が重要として、ラグビーの魅力の発信や指導員の養成事業などの展開を図っている。

ラグビータウン熊谷の魅力を国内外に伝えるために、地域への普及促進に積極的に取り組んでいるアルカス熊谷。ラグビーを一つの文化と捉え、ラグビーを通じたチームワークのあり方や、地域おこしの秘策なども模索している。ラグビーチームの運営を越えて幅広いプロジェクトである。（Ｙ）

アルカス熊谷クイーン

熊谷スポーツ文化公園内にある熊谷ラグビー場

熊谷ラグビー史

RUGBY TOWN KUMAGAYA

ラグビータウン熊谷の歴史は戦後すぐに始まった。昭和二十三（１９４８）年に熊谷商工高校（現在の熊谷商業と熊谷工業）がラグビー部を創部し、三年後に県大会で初優勝。当時、チームを率いた森憲雄監督は名将と知られ、全国大会に出場する強豪校に作り上げた。

昭和四十二年、埼玉で国体が開催される際には、熊谷の荒川河敷がラグビー会場として整備され、熱戦が繰り広げられた。

平成になると熊谷にはラグビー旋風が吹いた。全国にその名を轟かせたのは、地元高校ラグビーの活躍だった。平成三年、熊谷工業高校が全国高校ラグビー大会で初優勝。熊谷高校も県内の強豪になった。名実共にラグビータウン熊谷の幕開けとなった。同年、さいたま博覧会開催地の跡地に全国でも有数のラグビー場が完成した。

国内には秩父宮ラグビー場や、全国高校大会会を行う近鉄花園ラグビー場などがある中で、熊谷ラグビー場は「西の花園、東の熊谷」と呼ばれるほどの知名度を誇っている。また、大学ラグビーや社会人リーグ戦も数多く開催され、ラグビーの重要拠点の一つとなっている。フルサイズのラグビーグランドが三面あるのは国内でも珍しく、ゴールポストは二十メートルもの高さがある。今後、ワールドカップに向けて、スタンド増員などの改修工事も予定されている。

近年では、熊谷ラグビーを盛り上げているのが、熊谷に本拠地を置く立正大学ラグビー部だ。関東大学ラグビーリーグ戦グループに属し、一部リーグでの活躍を目指して日々トレーニングを積んでいる。また、同じく立正大学のキャンパスに拠点を置く七人制女子ラグビーのクラブチーム「アルカス熊谷」は国際的に活躍する選手を育成している。

小中学生男女を対象とした熊谷ラグビースクールも、ラグビータウンにはなくてはならない存在だ。ラグビータウンを通して基礎体力の向上やチームプレーの大切さを学んでいる。そこで育まれたラグビースピリッツが、未来の熊谷へと受け継がれていく。（Ｙ）

熊谷ラグビースクール

平成3年全国高校ラグビー大会で初優勝した熊谷工業高校フィフティーンのパレード

昭和42年に荒川河川敷で開催された埼玉国体

ラグビーのポジション

（出典：一般社団法人九州ラグビー塾「プレイヤーポジションルール」）

ラグビーのおもなペナルティ・ルール

名　称	概　要
ノックオン	ボールを所持していたプレーヤーがボールを前に落下させる。パスを受けようとしたプレーヤーが受け損なって前にボールを落下させる行為。相手ボールでのスクラムで再開する。
スローフォワード	ボールを前に投げてしまった場合の反則となる。相手ボールでのスクラムで再開する。
ノットリリース ザボール	タックルを受けて倒されたプレーヤーが、ボールを手放さなかった場合の反則となる。タックルを受けたプレーヤーはプレーの続行が禁止されているので、ボールは速やかに手放す必要がある。
オフサイド	ボールを持っている味方プレーヤーより前にいる味方プレーヤーがプレーに参加することは、反則となる。
ノットストレート	スクラムやラインアウトの時に、ボールを投げ入れるプレーヤーが両チームの間にまっすぐ投げなくてはならないというルール。

アルカス熊谷クイーン インタビュー

RUGBY TOWN KUMAGAYA

鈴木陽子さん・山中美緒さん

快進撃を続けるアルカス・クイーン。立正大学のラグビー部に属し、日本代表としての活躍も期待される二人のラガー・クイーンに話を聞いた。

明るいスマイルで迎えてくれたのは、スクラムハーフの鈴木陽子さんと、スタンドオフとスクラムハーフを兼ねる山中美緒さん。共に走ることを要求される七人制ラグビーの各ポジションを、ユーティリティに担う逸材でもある。

二人は幼少期よりラグビーに親しむ家庭で育ったという共通点がある。鈴木さんは「男性のイメージが強いラグビーの世界にも、抵抗感なく入り込むことができた」と話す。

日々ラグビーと向き合い、鍛錬を積み重ねている女子ラグビー部員たち。一見、過酷に思えるが、山中さんは前を向いて語る。「私たちは世界で戦えるラグビーを目指しています。他ではできない経験なので、毎日が充実しています」。まさに、彼女たちの原動力はそこにあるのかも知れない。そしてオンとオフの切り替えも大切にしている。恐竜と博物館巡りが好きな鈴木さんと映画鑑賞が趣味の山中さん。女子大生の一面が見受けられたのも微笑ましかった。

今や彼女たちの視線はリオデジャネイロ五輪へと向けられている。「オリンピックに出場するだけが目標ではありません。世界一になることが最大の目標です」と強い意志を込めて語る鈴木さん。山中さんも「アルカスでの成長が、オリンピックで結実することを信じています」と明確な目的意識を持っている。

ラグビータウン熊谷にとってアルカスは必須の存在だ。鈴木さんは「アルカスが国内外で力を発揮し、女子ラグビー日本代表で世界一になることが熊谷への恩返しだと思います。」と語る。そんな熱意ある一言がとても頼もしかった。アルカス・クイーンから、新たなラグビータウンの幕開けを感じた。（Ｙ）

鈴木陽子さん（左）と山中美緒さん（右）

ラグビーの歴史

RUGBY TOWN KUMAGAYA

ラグビーの起源は、１８２３年、イングランドにあるその名も「ラグビー校」から始まる。学校でのフットボール（サッカー）の試合中に、一人の選手がボールを抱えて、対戦相手のゴールを目指して走り出したという逸話がきっかけとなった。これがラグビーの歴史を生み出す最初の出来事であったと語り継がれている。

現在、サッカーでフィールドプレイヤーがボールを持つこと自体が反則となるが、当時のルールでは、手を使うことは認められていた。ただし、ボールを持って走ることは違反だった。ボールを持って走る。このプレーを発端として、人々は新たなスポーツの可能性を見出したのだった。

十九世紀半ばになると、フットボールからラグビーフットボールへの展開が様々な形で模索されることになる。新たなスポーツへの関心が一気に広がり、対戦校を集めての試合が開催されるようになった。その当時は、学校ごと、または地域ごとのローカルルールに基づいて試合が運営されていたが、ルールの統一化などの必要性が徐々に高まりを見せた。

そのような中、もう一つの動きがあった。１８６３年、ロンドンのフリーメイソンズ・タバーンで、ＦＡ（フットボール・アソシエーション）と、ロンドンに所在していたクラブの間で会議が開かれた。これは、新たなラグビーとしての動きではなく、フットボールのルールを再検討し、旧来フットボールのルールの厳格化を目指すものだった。年内に開催された数回の会議によりルールが改正され、これにより近代サッカーの基礎が作られていった。

これによってトリッピング（引っ掛けてつまずかせること）およびホールディング（おさえること）を行うことが違反となり、これに異論を唱えたグループがＦＡを脱退することになった。まさにこれが、ラグビーフットボールとアソシエーションフットボール（サッカー）という二つの流れが形成される事件となった。

１８７１年、脱退したグループが、ＦＡに対抗して、ロンドンでラグビー協会（ＲＦＵ：ラグビーフットボール・ユニオン）を設立。楕円球利用をはじめとしたルールの整備にも取り組んだ。このロンドンでの動きが世界中のイギリス領、ユニオンチャーチにおいてラグビーの本格的な拡大へとつながり、ラグビー文化の対外交流を推し進めた。これにより、ニュージーランドやオーストラリアなどのラグビー強豪国が育まれることになる。

十九世紀末、アメリカやカナダ、ヨーロッパ各国での普及が進んだ。当時の日本も欧米列強への関心の中でラグビー文化が輸入された。ミクロネシア各国でも大柄な体格を生かしたラグビーへの関心は高く、現在のラグビー風土の下地を作り上げていった。特に印象的なのはラグビー文化が先住民族の生活の中にも織り込まれていったことだ。例えば、ニュージーランドの先住民族である、マオリ族の伝統的な踊り「ハカ」は、試合前の士気を高めるものとして有名である。この伝統は現在のニュージーランドラグビー代表チーム、オールブラックスでも引き継がれ、試合前の醍醐味となっている。（Ｙ）

ニュージーランド代表のオールブラックス。伝統的踊り「ハカ」©sportsnet

文化財で街おこし

熊谷ラグビー場と北島遺跡

熊谷での人々の生活は、大里地域の箕輪や江南地域の野原の遺跡から発見されている石器から、今から約二万二千年前の旧石器時代に始まったと考えられている。

今から約一万年前には、人々が近くに水辺のある高台で生活していたことが分かっている。弥生時代に入ると、熊谷でも稲作が始まり、人々の生活は低地に進出したとされ、紀元前一世紀頃の「池上遺跡」（市内池上）では、住居跡から炭化した米粒が発見された。そして、同時期の遺跡として、ラグビー場がある熊谷スポーツ文化公園の地中には、「北島遺跡」が確認されている。この遺跡は、集落と生産域が同時に確認された県内最古の遺跡として貴重である。

平成一〇年度からスポーツ文化公園造成事業に伴い、「北島遺跡」の発掘調査が実施され、弥生時代中期の水田跡、集落跡、用水路や灌漑施設の堰跡（写真）などが発見された。現在、熱戦が繰り広げられているグラウンドの下には、古代の歴史が眠っている。歴史とスポーツの街・熊谷の原点がこの遺跡にあるように感じられる。

（熊谷市立江南文化財センター　山下祐樹）

駅前にあるラグビーのモニュメント

熊谷駅の待ち合わせ場所として使われることの多い正面口ロータリー。一番目立つ位置にある「熊谷次郎直実像」の他に、もう一つ有名な目印がある。それがラグビータウン熊谷の表玄関を飾るシンボル、ラグビーボールのモニュメントだ。埼玉県ラグビー協会の寄付により作られ、ラグビーボールに上に乗るラガーマンの像も印象的に目に映る。

モニュメントのデザインは、制作に関わった彫金家の一人が、ニュージーランドに行ったときにウイスキーのボトルラベルがインスピレーションを受けたものと言われている。熊谷市の姉妹都市であるインバーカーギル市もニュージーランドにあることから、不思議な運命を持つモニュメントである。そのニュージーランドはラグビーが国技として有名で、代表チームのオールブラックスは、世界最強の実力としてその名を轟かせている。

モニュメントの上に立つラガーマンの背番号は９番。これはスクラムハーフというポジションのナンバーで、スクラムから出たボールをパスしてフォワードとバックスを橋渡しする重要な役割を持っている。

このポジションから考えた時、熊谷出身のラガーマンが思い浮かぶ。熊谷工業高校出身で元日本代表の中心的ラガーマンとして活躍した堀越正己氏（現・立正大学ラグビー部監督）や、熊谷高校出身で日本代表監督も務め、往年のラグビーファンに愛された宿沢広朗氏もスクラムハーフだった。

駅前に立つラグビーボールのモニュメントから、熊谷のラグビーの歴史を思い浮かべる。そんな待ち合わせの時間も、ラグビータウン熊谷ならではの一興である。

第9回 定例総会を無事終えました。

去る五月二十三日（土）筒亮にてNPO法人くまがや小麦の会（日向美津江会長）第九回定例総会が行われました。

会員数２４５名（賛助１２１、一般１２４）の内、出席４３名、委任状１２１名で過半数充足し総会が成立、全ての議事が承認されました。

当日のゲストスピーカーは、賛助会員様であります（医）熊翔会 今井院長です。

今井院長は、現在、埼玉県循環器呼吸器病センターで非常外来勤務を兼任され、ご多忙の中講演をしていただきました。

演題は「胸に病を感じたら」。胸の痛み、動悸、息切れ、胸の不快感などの症状をパワーポイントで動画を交えながらわかりやすく説明していただきました。Take home message として早期発見前に医療機関への受診が必要との説得力ある内容に一同大きく頷きました。

懇親会では、旬のお料理を堪能し、和気藹々と素晴らしい会になりました。（Ｙ・Ｋ）

講師の今井院長と日向会長

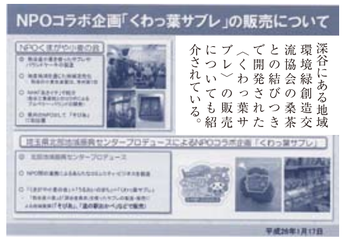
Think-ing 掲載

彩の国さいたま大づくり広域連合政策情報誌

埼玉県秩父環境管理事務所　石川勉さん
埼玉県都市計画課　小林竜也さん

NPOを通じた企業、大学、高校団体などの社会貢献活動と共助社会づくり

「Think-ing」彩の国さいたま大づくり広域連合政策情報誌」の自治論文に、県内北部地域のNPO法人の企業による共助の取組の項目で、NPO法人くまがや小麦の会が紹介されました。作文者は埼玉県秩父環境管理事務所・埼玉県都市計画課　小林竜也さん。熊谷産小麦の地産地消を通じた地域振興を設立の目的として、ことから始まり、商品販売、イベントへの出店、ボランティア活動の参加等の活動紹介と、運営面の様々なサポートによる共助の取組が、モデルとしてリーディングケースではないかと考えていると紹介されている。


NPOコラボ企画「くわっ葉サブレ」の販売について

溪谷にある地域環境緑創造交流協会の桑茶との結びつきで開発された（くわっ葉サブレ）の販売についても紹介されている。

セレモニーホール 埼玉県熊谷市の葬儀場 ゆうえん
お急ぎの方 0120-136-444
亡き人に心をこめて JA くまがや指定
万一の場合は当ゆうえんにご相談下さい。
生花祭壇　生前予約葬　ゆうえん友の会
〒360-0813 埼玉県熊谷市円光 1-17-13
TEL：048-525-5444・FAX：048-525-5446

よい環境が、人を育む。 育つ 遊ぶ 学ぶ
2才児教室 Little Ricky　Kissho Kindergarten
一貫性のある教育の実現
学校法人 熊谷立正学園 立正大学系列 立正幼稚園
http://www.rissho.ed/jp/
埼玉県熊谷市楊井1748-2
TEL.048-536-1688
FAX.048-536-2168
Facebook で いいね！してね
立正幼稚園公式 Facebook ページがあります スマートフォンからも 園の情報をチェック

吉田・櫻井税理士法人
税理士　吉田 嘉高
税理士　吉田 貴之　税理士　櫻井 富美子
〒360-0014　熊谷市箱田2-2-8
TEL:048-521-0334　FAX:048-521-4506

くぼじまグループ くぼじまクリニック KUBOJIMA CLINIC
理事長・院長　大島譲二
●総合内科（かかりつけ医）
●人工透析
熊谷運動公園北・入院設備有
〒360-0831　熊谷市久保島 1785-2
TEL:048-533-7511（代）FAX:048-533-4606
http://www.kubojima.com/

【時代はリサイクル】の精神で、更なるリサイクルに挑戦し続ける
リサイクルの亀井産業グループ
環境問題への対策として892億円を削減するために、
太陽光発電 始めました。
【大内沢太陽光発電所　メガソーラー発電中】
【発電容量　1,725.5kW】
時代はリサイクル 亀井産業株式会社
埼玉県熊谷市三ヶ尻4236番地　TEL048-532-3391 FAX048-532-5235
東秩父事業所・秩父事業所・深谷支店
熊谷カーボン
埼玉県深谷市長在家２４８３ TEL０４８－５３１－４３８３
熊谷カーボン　ソーラー発電中　18.24kW

株式会社 平松
代表取締役 日向研一朗
歴史が育む無限の可能性…地域密着・食品卸売業
原材料食品は包材まで御用命下さい
We are HIRAMATSU
〒360-0801 埼玉県熊谷市中奈良1797-1
TEL：048-521-0026
●ビッグベアショッピングモール（埼玉県熊谷市代1067）
・飲食・トイザらス・スポーツオーソリティー・ブルームーンカフェ・大創ほか
●平松運輸株式会社（埼玉県熊谷市中奈良1797-1）

熊谷の風土と歴史の香りをお届けします
勇猛奮戦 熊谷賞ビール
そら豆の焼酎 豆蔵
小麦の語らい
熊谷産小麦・米 100%使用
定休日：日曜日
近江屋酒店
http://www.oumiyasaketen.com/
熊谷市肥塚4-7 TEL.048-521-1009 FAX.048-521-3198

2019 ラグビーワールドカップ熊谷開催を成功させよう!!
ONE FOR ALL ALL FOR ONE
家族で一緒に焼き上がり1番を楽しむ熊谷 焼きピッツァ
みんなで応援！スポーツ観戦も大迫力の大画面 で!!
窯焼きピッツァ
ゆったりソファ
NO SIDE ラグビーダイニング
20名様以上の要会に最適の空間
住所：〒360-0037 埼玉県熊谷市筑波1-194 NO SIDEビル
TEL：048-524-0005　FAX：048-524-0014
OPEN：17:00　CLOSE：23:00
定休日：月 火 本（貸会10名様以上で対応可。お気軽にご相談ください）
MAIL：info@no-side.biz
URL：http://no-side.biz
ノーサイド 熊谷